

監督が複数の陸上部員達に性的な指導をしまくる話。

基本CG10枚

総枚数28枚

gv

陸上で鍛えた体を監督が犯し尽くす、。。。。。

陸上部員の話。

私たちは日々練習に励んでいます。でも、それはいい記録を出すためではありません。。。練習で鍛えられたこのムチムチの体を監督に抱いてもらうため。。。。





今日も私たち陸上部員は練習です、……。
監督がこちらを見えています、……。いや、正確には
私たちのアソコを見えています、……。
どうやらこれから誰とセックスしようか考えているようです、……。
もちろん、みんないつでも受け入れる準備はできています、……。
監督とセックスしたいからです、……。



今日最初に選んでいただいたのは私でした。

「ふんっ♡ん♡ん♡ん♡ん♡ん♡」

「は、はい、♡こ、これから監督に抱いてもらえると思ったたら嬉しく

「謝ることはない。いいだろう。お前の」





「あつ♡ああつ♡んあぁ——♡♡」
「ほらほらどうした！まだまだこんなもんじゃすまないぞ！」
「ついに監督とのセックスです、、、。それも着衣セックス、、、。」
「監督は私のユニフォームごとアソコに向かって自分のモノを挿入してきました、、、。」
「ぶっ、、、ぶっ、、、ぶっ、、、うぐっ！」
「ユニフォームが擦れる感触で、監督も気持ちよさそうです、、、。」
「んっ♡あつ♡ああん♡♡か、監督、♡き、気持ちいいです、、、♡」
「そうか、それはよかった！」
「あつ♡あつ♡はああん♡♡」
「その後も続くセックス、、、。」
「ああ、そろそろ出そうだ、、出すぞ！いいな？出すぞ！！」
「んはあつ♡あああつ♡♡は、、はい♡♡出してください♡♡」
「私のアソコ」に思いっきり射精してください♡♡んはああああ——♡♡♡♡」
「うぐあつ——」
そうして監督は苦しそうな声と同時に私のアソコに射精しました、、、。









「あ、♡か、監督、♡♡」
練習後、監督にお尻を鷺掴みにされてしまいました、♡♡。
「全くいやらしい尻をして、♡♡。誘ってるのか？俺を。」
「ん、♡は、はい、♡♡。監督とせ、セックスしたくて、♡♡♡」
「ふふ、そこまではつきり言われて断るわけにはいかないな、♡♡。」
「あん♡か、監督、♡♡♡♡♡♡」
そして、そのまま私は監督に連れ込まれてしまいました、♡♡。







「んっ♡んっ♡んっ♡か、監督、気持ちいいですか、……？」

「はあ、はあ、あ、ああ、いいよ。実にいい！」

「んふ、♡よかった、♡いっぱい気持ちよくなってくださいね、……♡」

監督は私を連れ込むと、私のブルマの中に自分のモノを入れて、激しくしごいてきました、……。

監督は自分のモノが締め付けられて、とても気持ちよさそうです、……。

「ぐっ、……！ふっ、……！ふっ、……！うっ、……！」

「んっ♡んあっ♡んんっ♡」

段々監督の腰の動きが激しくなってきました、……。おそらく射精が近いのだと思います、……。

「か、監督、出そうなんですか、……？」

「あ、ああ、……！もう我慢できないようだ、……。だ、出していいか！？」

「あん♡は、はい、もちろんです、……。♡私のユニフォームの中で思いきり射精してください♡」

「よ、よし、わかった……！」

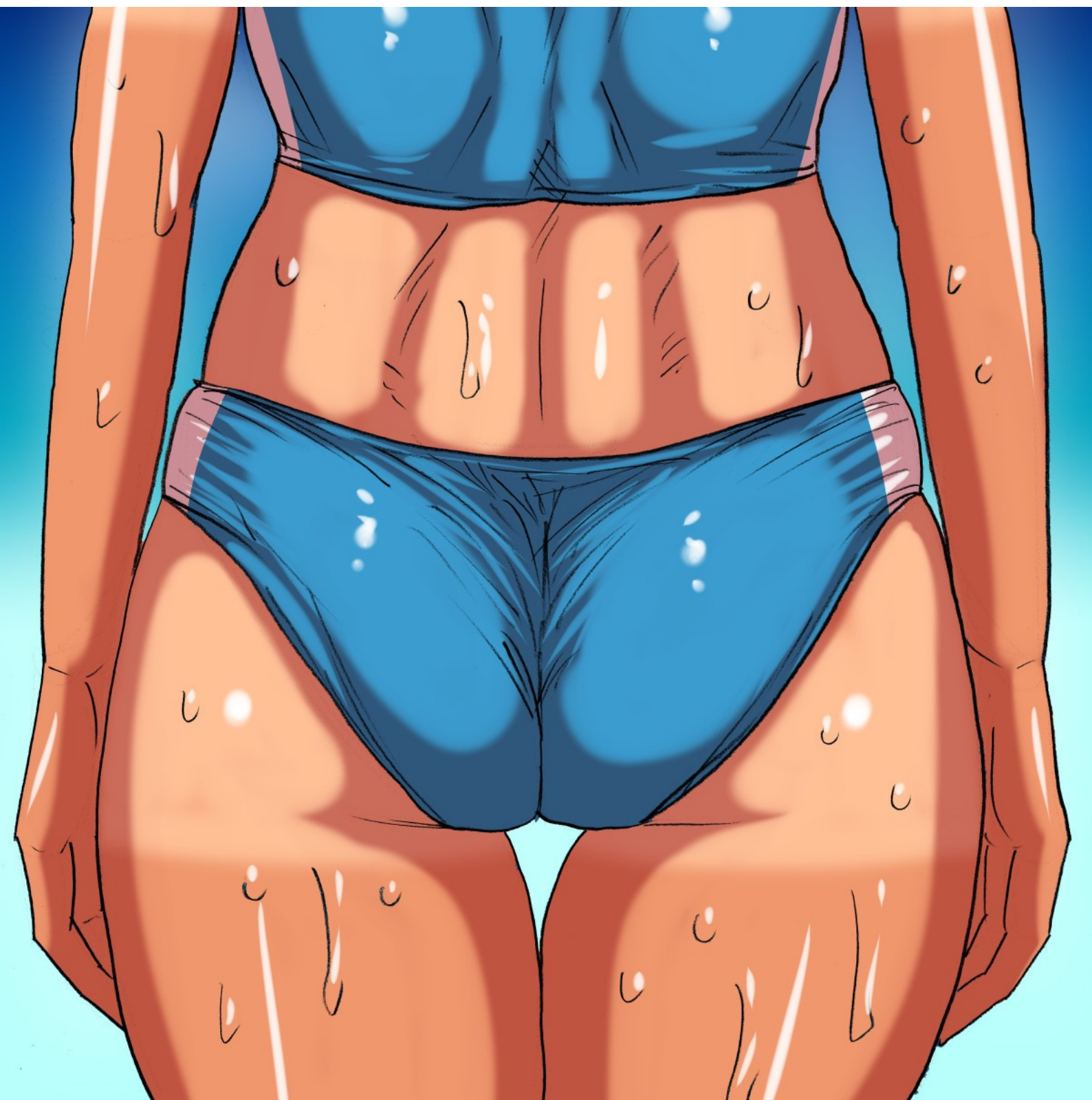
「あっ♡んあっ♡はっ♡はああん♡♡」

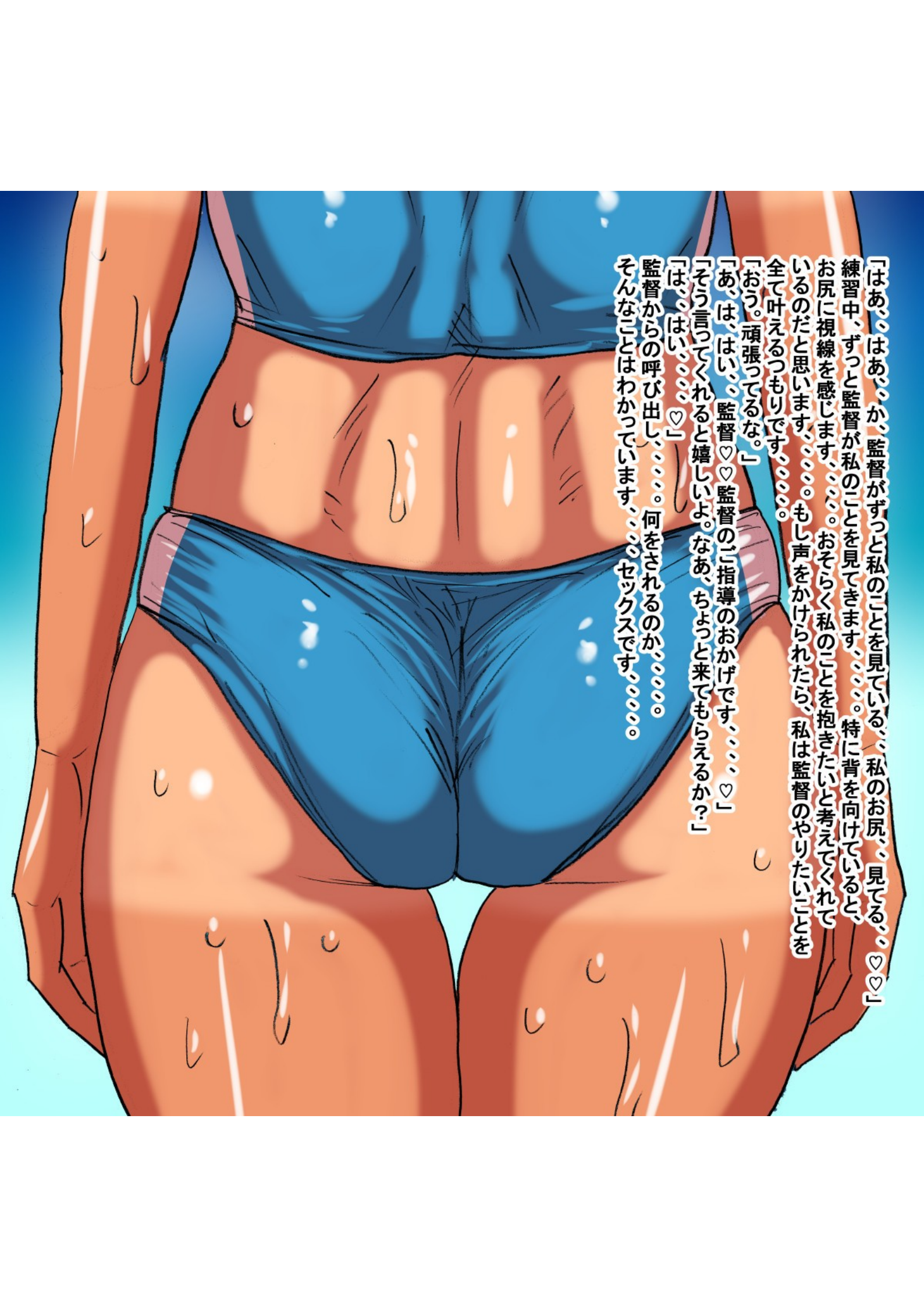
「ぶっ、……！ふっ、……！ぐううう……！！！！！」

そして、監督は私のユニフォームの中に射精してしまいました、……。



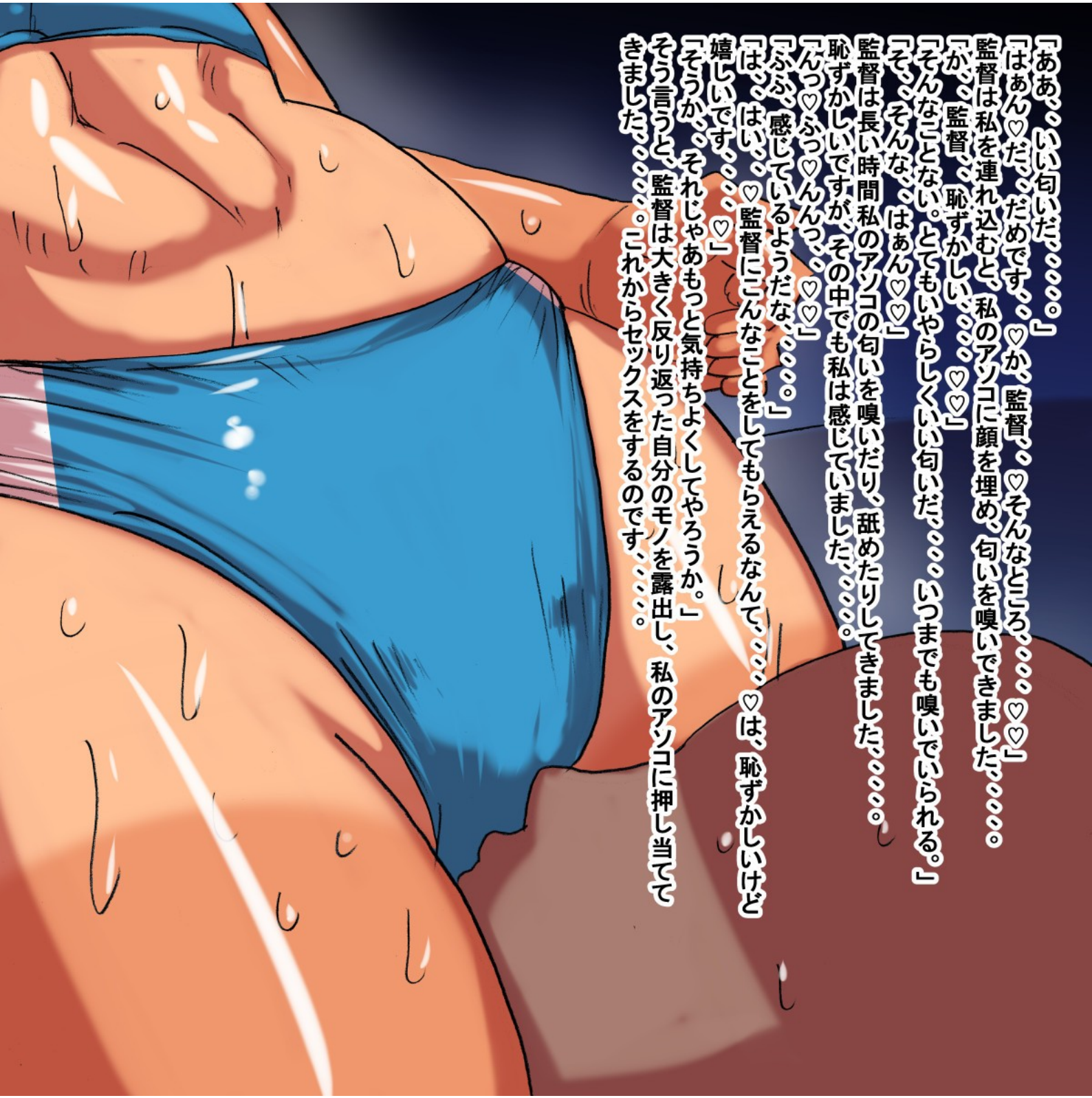






「はあ、はあ、か、監督がずっと私のことを見ている、私のお尻、見てる、♡♡」
練習中、ずっと監督が私のことを見てきます、……。特に背を向けていると、
お尻に視線を感じます、……。おそらく私のことを抱きたいと考えてくれて
いるのだと思います、……。もし声をかけられたら、私は監督のやりたいことを
全て叶えるつもりです、……。
「おう、頑張ってるな。」
「あ、は、はい、監督♡監督の指導のおかげです、……。♡」
「そう言ってくれると嬉しいよ。なあ、ちょっと来てもらえるか？」
「は、はい、……。♡」
監督からの呼び出し、……。何をされるのか、……。
そんなことはわかっています、……。セックスです、……。





「ああ、いい匂いだ。。。。」
「はぁん♡だ、だめです。♡か、監督、♡そんなところ。。。。♡♡」
監督は私を連れ込むと、私のアソコに顔を埋め、匂いを嗅いできました。。。。
「か、監督、恥ずかしい。。。。♡♡」
「そんな」とない。とてもいやらしい匂いだ。。。。いつまでも嗅いでいられる。」
「そ、そんな、はぁん♡♡」
監督は長い時間私のアソコの匂いを嗅いだり、舐めたりしてきました。。。。
恥ずかしいですが、その中でも私は感じていました。。。。
「んっ♡ふっ♡んっ。。。。♡♡」
「ふふ、感じているようだな。。。。」
「は、はい。♡監督にこんなことをしてもらえるなんて。。。。♡は、恥ずかしいけど嬉しいです。。。。♡」
「そうか、それじゃあもつと気持ちよくしてやろうか。」
そう言つと、監督は大きく反り返った自分のモノを露出し、私のアソコに押し当ててきました。。。。これからセックスをするのです。。。。



「んっ♡んっ♡んんんっ♡♡」

「はあっ!はあっ!ど、どうだ!?気持ちいいか!?!」

「ああん♡は、はい♡監督♡気持ちいいです♡♡」

監督は背後から私のアソコに向かって挿入してきました、。。。じ

「んっ♡はっ♡はあん♡♡」

「はあっ!はあっ!全くだいやらしい体だな!気持ちよすぎて腰が止まらないぞ!」

「ああん♡あっ♡か、監督、いいですよ♡♡好きなだけ動かしてください♡♡」

監督のモノはとても固くたくましく、私のアソコをかき回してきました、。。。

「んっ♡はあっ♡んはあん♡♡」

「ああ、いい、いいぞ、出る、出るぞ!」

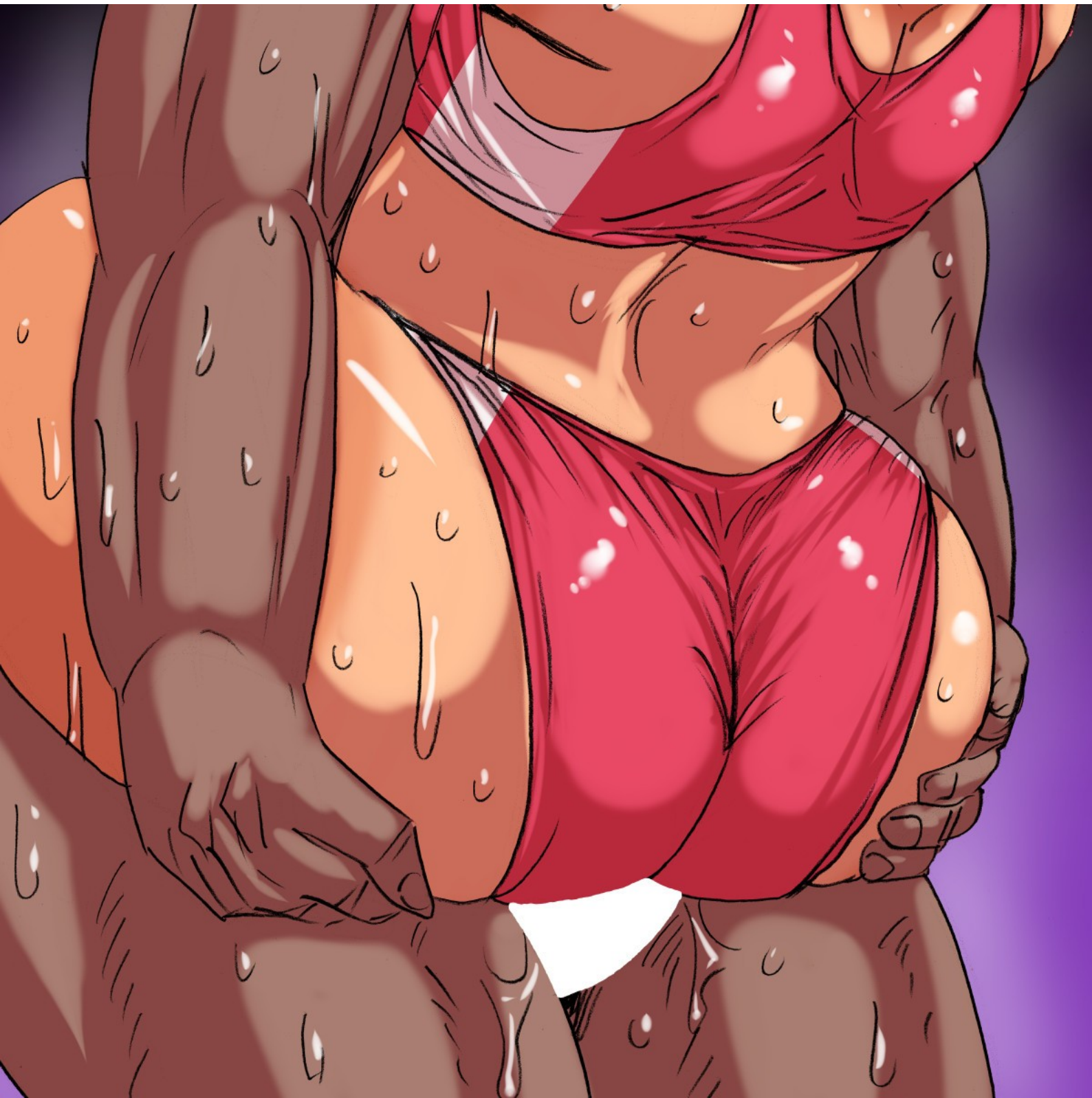
そう言いつつ、監督の腰を打ち付けるスピードが速くなりました、。。。

「ああん♡あっ♡あっ♡あああ——♡♡出して、♡出してください♡監督♡♡」

「ぐうぐう……」

監督の声と同時に、私のアソコは監督の体液で満たされてしまいました、。。。じ







「あっ♡んあっ♡あああ——♡♡」

「全く、覗いていたなんてとんでもない女だな！お前は——」

「♡♡、♡めんなさい、♡♡♡めんなさい監督♡♡♡」

二人が交わっているところを覗いていることがバレしてしまった私は、お仕置きと称して
激しいセックスをされてしまいました、♡♡♡。

監督は私を持ち上げ、下から激しくピストンセックスをしてきました、♡♡♡。

「おらっ！覗きなんてやる女にはお仕置きセックスだ——」

「はああん♡♡、♡めんなさい♡♡覗いて♡めんなさい♡♡でも気持ちいいのお♡♡」

「全く！お仕置きなのに気持ちよくなつてどうするんだ——」

「あっ♡んああ♡♡♡、♡めんなさい♡♡♡めんなさい♡♡♡」

「そろそろ出すぞ——いいか——しっかり受け取れ——！！」

「はああああああん♡♡♡」

そして、監督はそのまま私のアソコに向かって射精しました、♡♡♡。



この度は当サークルの作品をご購入くださりありがとうございます。

陸上部の話です。第三弾です。何度も描いているジャンルですが、描きやすく、
s
何度も描きたくなるジャンルです。

陸上関連作品（公開予定含）

l p s s t u x y ab ae ai aq ar ce cf cg db dc di do fe ff fg
gg gh gi gj gk gl gm gn gt gu gv gw

当サークルホームページ等専用のページを開設致しました。
これらにおいても創作活動を行っておりますので、よろしければご確認ください。

Ci-en:<https://ci-en.net/creator/4749>

Fantia:<https://fantia.jp/fanclubs/27877>

※当サークルの作品は全てフィクションです。実在する人物との性行為、およびそれに準ずる行為を行う際は決して強要することなく、お互いの明確な同意、理解、許可を得た上で行いましょう。

※当サークルの全作品の無断転載（購入されてない方が閲覧できるようにする）等の行為はご遠慮願います。ご協力の程、よろしくお願い致します。